

国造ゆず

(若い世代に対する国造ゆずの認知度向上策)

指導教員 金沢学院大学 経営情報学部 教授 奥井めぐみ、文学部 教授 笠間弘美
参加学生 経営情報学部 宝田恭平他 11 名、文学部 坂上佳蓮他 4 名

1. 活動の成果要約

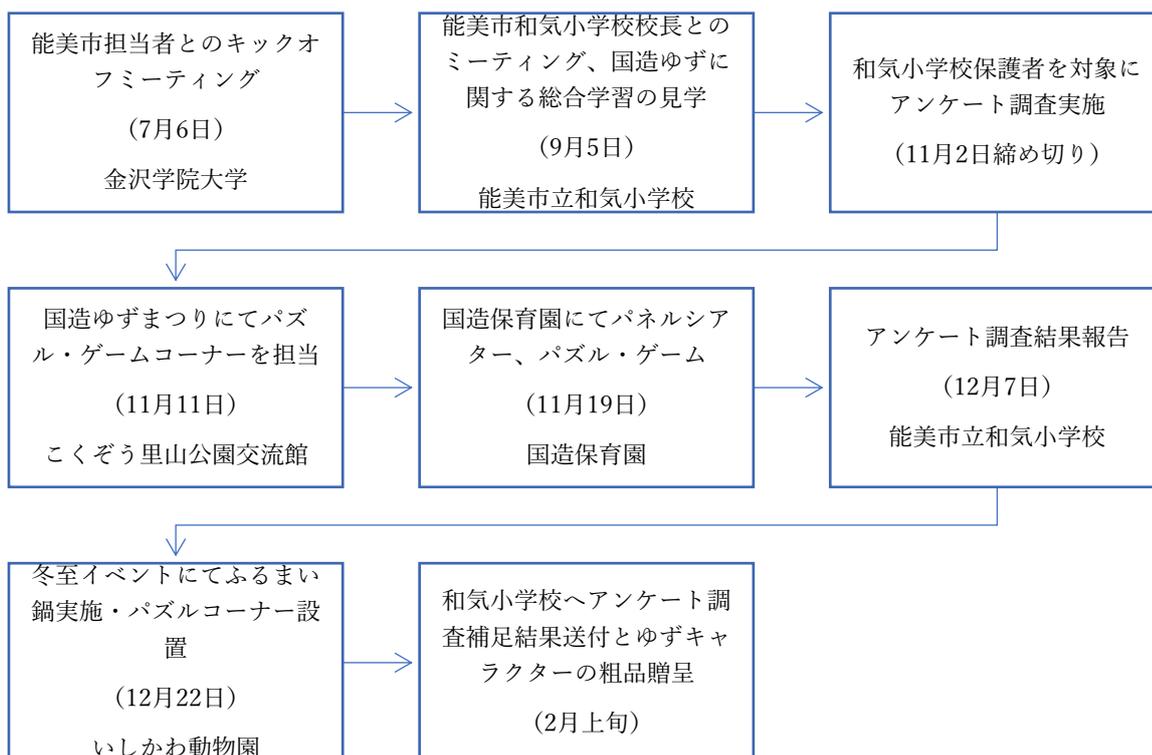
能美市の国造ゆずは、無農薬・有機栽培という魅力を持っていながら、年々生産農家が減り、後継者もいない状況にある。今回の活動では、地元の若い人々に対する国造ゆずの認知度を高め、地域が一体となって国造ゆずに関わることができるように、特に、小さい子供向けに国造ゆずをテーマにしたパズルやゲームを提供し、積極的なPR活動を行った。さらに、地元和気小学校の協力を得て、保護者に対するアンケート調査を実施し、現状把握を行った。(198 文字)

2. 活動の目的

この活動は、能美市の若い世代に国造ゆずについての理解を深める機会を設けてもらい、地元の財産である国造ゆずの存続につなげることを目的としている。そのため、①アンケート調査の実施とフィードバック、②国造ゆずに関するイベントの実施、の2つを活動の柱としている。①に関しては、地元の能美市立和気小学校では、平成 29 年度から 5 年生の総合学習で国造ゆずの学習に取り組んでおり、その効果を定量的に示すことで、今後の活動に活かすことが期待できる。②に関しては、活動を通して次世代を担う子どもたちが家族や兄弟で地元の特産物を話題に会話を広げ、自分たちのふるさとに親しみを持つ心を育むきっかけとなることが期待される。(298 文字)

3. 活動の内容

以下に、主な活動内容を時系列で示す。



活動の様子

① 国造ゆずをテーマにした子ども向けパズル・ゲーム

(写真1) パズルの制作風景 (写真2) ゆず祭りでの
パズルコーナー



(写真3) ゆず祭りでの
パネルシアター



(写真4) 国造保育園イベント
くだものゲーム



(写真5) 国造保育園イベント
パネルシアター



(写真6) オリジナルキャラ
クターシール等



② いしかわ動物園の冬至イベントへの参加

(写真7) ふるまい鍋の様子 (写真8) 学習センターの
パズルコーナー



(写真9) カピバラのゆず湯



③ アンケート調査の実施

(写真10) 調査結果報告
報告



(写真11) 校長先生
コメント



4. 活動の成果

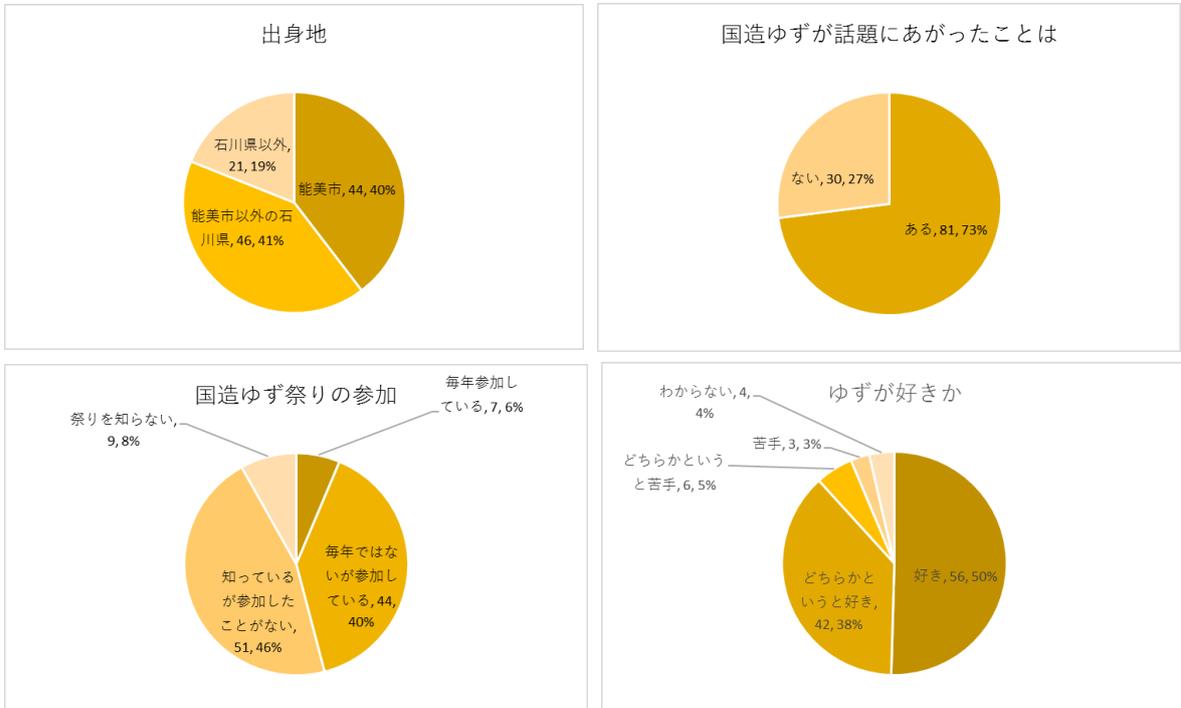
① アンケート調査結果

○調査概要

[対象]：能美市立和気小学校 保護者対象（回収数 111 票、尚、児童数は 198、長子のみ配付）

[時期]：2018 年 10 月 24 日～11 月 2 日。クラス担任が配付、回収。

○単純集計



○クロス集計結果

子どもの学年	国造ゆずを知っているか			合計
	国造ゆずやその関連商品を利用	利用したことはないが知っている	知らない	
5年生	62.5	37.5	0.0	100.0
6年生	84.2	10.5	5.3	100.0
5, 6年無し	39.1	55.1	5.8	100.0

(表 1)

総合学習を実施した 5, 6 年生の保護者で、国造ゆずの関心が高い。

子どもの学年	ゆずが話題に上がったことはあるか		
	ある	ない	合計
5年生	91.7	8.3	100.0
6年生	94.7	5.3	100.0
5, 6年無し	60.9	39.1	100.0

(表 2)

総合学習を実施した 5, 6 年生の保護者で、国造ゆずが家庭で話題にあがっている。

子どもの学年	話題に上がったこと（複数回答）					ゆずが話題に上がったことがある家庭
	①5年生の総合学習	②国造ゆず祭り	③ゆずの収穫	④ゆずをいただいた	⑤その他	
5年生	77.3	81.8	22.7	40.9	18.2	100.0
6年生	77.8	88.9	44.4	50.0	11.1	100.0
5, 6年無し	38.1	81.0	11.9	26.2	11.9	100.0

(表3)
総合学習の話題が家庭でもあがっていることがわかる。

年齢層	家庭でゆずを利用する際に困ること（複数回答）				
	①利用方法がわからない	②なかなか入手できない	③その他	④困ることはない	合計
20代未満	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
30代	34.5	18.2	12.7	34.5	100.0
40代	29.8	19.1	2.1	44.7	100.0
50代	75.0	0.0	0.0	25.0	100.0
60代以上	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
無回答	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
合計	32.4	17.1	9.0	38.7	100.0

(表4)
若い年齢層ほどゆずの「利用方法がわからない」と答える比率が高い。

② 活動を通して付与することのできた付加価値

アンケート調査の実施により、和気小学校の児童の家庭で国造ゆずについて親子で考えるきっかけを作り、小学校の総合学習での取り組みを評価することもできた。また、国造ゆずに関するパズルやパネルシアターは、親子で楽しんだり、子どもが家に帰って親に報告したりするなどして、親子で国造ゆずについて考える機会を提供できた。これらの活動を通して、地元の若い世代の人々に、国造ゆずを地元の貴重な資源として再認識してもらい付加価値を与えることができたと考える。

5. 次年度の活動計画

大学コンソーシアム石川の採択事業としての期限は1年であるが、次年度以降も、①和気小学校に対するアンケート調査とフィードバック、②国造保育園やゆず祭り等での国造ゆずPRのためのパズル、ゲームなどのイベント実施、③いしかわ動物園の冬至イベントにあわせたふるまい鍋、の3つを継続して行い、地元の若い層の国造ゆずに対する認知度を高める機会を作っていく。

6. 活動に対する地域からの評価

和気小学校の教員より、アンケート調査の結果報告に対して、総合学習で国造ゆずについて学習した成果を、このように数字として示していただけたことを非常にうれしく思う、というコメントをいただいた。また、迅速な集計に対しても評価していただいた。いしかわ動物園からは、ぜひ今後もふるまい鍋を続けてもらいたいと言われている。また評判だったパズルについては、お正月の動物園イベントとして引き続き利用させていただきたいとのコメントをいただいた。このように、関係者から活動に対して非常に高い評価をいただいている。パズル、ゲームコーナーは、保護者が子どもたちの楽しむ姿を嬉しそうに見守り、一緒に楽しんでいた。